令和８年度　授業改善推進プラン

国分寺市立第八小学校

1　学校として目指す授業

○丁寧に粘り強く取り組む力が身に付く授業　○一つ一つの知識がつながり、「できた！」「わかった！」と思える授業　○自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業

2　児童の現状

（１）「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校６年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
・国語の平均正答率は、全国と比較して高い傾向にあるが東京都と比較すると全体的に下回っている。その中で見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や既習の漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られた。 ・算数の平均正答率も、全国と比較して高い傾向にあるが東京都と比較すると全体的に下回っている。しかし、「Ｂ図形」や「Ｃ測定」の領域の正答率は東京都より高かった。「Ｃ変化と関係」と「Ｄデータの活用」が比較的低く、比例や反比例の関係を理解したり、数量の変化を捉えたり分析したりすることに課題がある。	・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」や「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の問いに対しては否定的な意見が多く、積極的に自分の考えを表現したり、他者の考えを取り入れたりしようとする意欲が十分でないことが考えられる。 ・本校の児童は、ICT機器の活用が勉強の役に立つことは理解しているが、ICT機器の活用状況が低い傾向にあり、全国と比較しても日常からの活用が十分ではないといえる。

（２）都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（小学校４～６年生）

・学習する理由について、「将来の仕事や生活に役立つから」と、「しっかりと考えられるようになりたいから」の数値が一番高い。一方で、「学校の学習で人に負けたくないから」と、「先生や家の人にほめられたり、ごほうびをもらえたりするから」が他よりも低い。他者と比べるというより、自己の学びへの手ごたえに価値を見出している傾向がある。
・学習の進め方については、漢字・計算共に「まちがえたときは、どこでまちがえたのかを考えている。」の数値が高く、まちがいに対して粘り強く取り組もうとする児童が多い。また、国語では、「他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている」と、「大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる」が低く、大切なことが何かを判断したり、メモを取ったりする習慣があまりないことがうかがえる。算数では、「学習した言葉や公式を言えるようにしていたり、自分の考え方を説明したりすることに活用している」と、「問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている」が低かった。日頃の学習で、基礎の定着と継続的な活用が必要である。
・どのように学習を進めているかについて、「対話しながら進める」の回答が若干低かった。本校の児童は、自分の考えをもつことはできてきているが、それを説明したり、分からないときに質問して考えを深めることへの習熟が不十分である。学習過程の中で、児童が自分の学びをアウトプットする機会を更に増やしていくようにする必要がある。

（３）　その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
【東京ベーシックドリル（算数）の結果から】 ・どの学年も、表とグラフに関する問題の正答率が低い。正確に数値を読み取り、グラフに表すことに課題がある。 ・２年生で学習するかけ算や表とグラフ、３年生で学習する円や球の正答率が低く、日常生活に関連する内容を取り上げるなどして、身に付けさせる必要がある。 ・6年生では、がい数や割合の正答率が低いことから、下の学年から系統的に基礎・基本を定着させるとともに、テープ図や表などに表して理解させていく必要がある。

3　児童の学力・学習状況等の課題

・基礎的・基本的な学力の定着が十分でない児童がいる。
・積極的に自分の考えを表現したり、他者の考えを取り入れたりしようとする意欲が十分でない。
・読み取った情報を自分の言葉で表現する力に課題がある。
・ICT機器の活用が日常から十分ではない。

4　学校全体の授業改善の視点

A　基礎的・基本的な内容の定着の徹底。
B　粘り強く取り組み、全ての児童ができた、分かったと実感する授業の実践。
C　GIGA端末を活用するなど、自分の考えをもち、表現する場面を取り入れた多様な授業形態。

【授業改善推進プランの活用法】

①「１　学校として目指す授業」を設定する。
　※学校経営方針との関連を確認すること。
②「１　学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「２　児童の現状」にまとめる。
③「２　児童の現状」を基に，学校全体の課題を焦点化して，「３　児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「３　児童の学力・学習状況等の課題」を基に，「４　学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「４　学校全体の授業改善の視点」を基に、「５　各教科における授業改善の方策」を設定する。　→　学校指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、３学期以降の指導に生かす。
　評価　◎…実施した。　○…一部実施した。　△…未実施

5　各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	A漢字学習の際、その漢字を使った言葉、熟語などを取り上げ、語彙を増やし、表現に活かせるようにする。 Cペアやグループ活動を通して、自分の考えを広げ、表現する力を付ける。				A足し算・引き算・かけ算九九の基礎基本の習熟ができるようICTやドリルを活用する。 B全ての児童ができたと思えるように、自分の課題から自分に合った問題を選択できる問題を用意する。				B児童が日常で体験してきたこと、体験しているものと結びつけるようにする。 C体験的な活動を行った際に、気付いたことや考えたことを自由に話せるよう言葉掛けを工夫する。		A 授業の流れと学習活動を明確にし、見通しをもたせる。 B 音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 正しい道具の使い方を定着させる。 B 様々な材料による表現方法を知り、すべての児童が楽しく発想や構想ができるよう指導を工夫する。				A安全のために、道具の正しい持ち方や使い方を定着させる。基本的な運動技能を定着させられるように、ポイントを意識した運動を行う。 B児童一人ひとりの運動能力に合った活動を行えるように、レベル別の場を設け、児童が選択できるように工夫する。				B他の児童の考えを聞くことを大切に授業を展開し、多様な考えがあることや、話したことが認められたと感じられるよう言葉掛けを工夫する。 C資料提示や、自分と他者の考えを比較する際にICTを活用する。	
中学年	A漢字学習や辞書引き学習、読書活動を進め、語彙を増やし表現力を高める。 Cペアやグループでの話合い活動など様々な対話的な活動を通して、自分や相手と考えを伝え合う力を付ける。		A 地図記号や方位、重要な用語等の基礎的な知識を繰り返し指導し、定着を図る。 B学習問題に対する予想をもとに学習計画を立て、児童が自ら見通しをもてる学習を行う。		A整数の四則計算などの基礎的・基本的な事項をドリルなどを用いて繰り返し指導し、学力の定着を図る。 B自分の考えを算数の用語を正しく用いて表現し、発表を通して考えを深める。		A「問題→予想→実験→結果→考察→まとめ」の思考の流れを大切にし、基礎的・基本的な学習の流れを定着させる。 B 何を確かめるための実験や観察かを明確にし、児童自身の疑問を解決できるような学習過程を工夫する。				A生涯的に音楽とかかわることができるようなきっかけづくりとして様々なジャンルの音楽にふれる機会を作る。 B音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める		A 正しい道具の使い方を定着させる。 B 表したいことを先にイメージし実現する題材や、表しながら表現の思いが膨らむ題材など、様々な学習過程を経験するように指導を工夫する。				A各種の運動を安全に楽しくできるようにルールを知る。基本的な動きや技能を身に付けられるよう活動の振り返りを行う。 C児童同士互いに技に取り組む様子をICT機器で撮影し、自分や相手の良さや課題に気付き、よりよい動きを目指せるよう活動を工夫する。				B 意見交流の時間を設け、自分の考えと他者の考えとの共通点や相違点に気付き自分の考えを深める。 C ICTを活用した教材提示を工夫や、児童の考えを可視化することで、主体的な学習を促す。	
高学年	A漢字学習や音読を通し、基礎学力を高める。 C自分の考えをもってから話合い活動をすることで、自分の意見を表現する場を設け、他者と意見を交流し、考えを深める。		Aキーワードや社会的事象の基礎知識を確認し、既習内容と新しい学習を関連付けながら理解を深める。 Cタブレット端末で調べた内容を整理し、図や表を用いて自分の考えをまとめ、その考えを交流・発表する機会を充実させる。		A小数や分数の四則計算などの基本的・基礎的な事項についてICT などを用いて指導し学力の定着を図る。 C多様な考えをもとにして、対話的な学びを通して、全員自分の考えをもてる。		B日常経験や既習事項と関連付けながら予想を立て、実験に取り組む。 C実験の様子を撮影して記録に残すことで、実験をいつでも振り返ることができるようにする。静止画と動画を有効に使い分けることで、変化の流れや変化の瞬間をつかみやすくする。				A生涯的に音楽とかかわることができるようなきっかけ作りとして様々なジャンルの音楽にふれる機会を作る。 B音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 材料や用具の使い方の確認と応用をする。 C 経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料を選べるように、学習活動に幅をもたせ、自分なりの表現ができるようにする。		A 生活場面と結び付けて確認し、調理や裁縫などの基本技能を、手順を確認しながら繰り返し実践する。 C 動画や写真、ICTを活用して調理方法や裁縫の仕方を視覚的に理解しやすくすることで、児童の意欲を高める。		A 発展的な動きに繋がる基本的な動きを身に付け、運動の特性に応じた技能を習得できるよう段階的な学習を行う。 C タブレット端末で撮影して自分や仲間の動きを客観的に捉え、課題や改善点を共有することで、よりよい動きを目指せるようにする。		A 大事な単語やキーワードゲームやミッシングゲームなど児童が保沁みながらできるように工夫をし、言葉の定着を図る。 C 構文を使用させながら。日常経験と結び付けて考えさせ。自分の考えを表現しやすいようにする。		A 生活や経験と結び付けながら、自己の生き方について考えあを深めることができるようにする。また、行事や学級活動などを通して、学習した内容項目を生かす場面づくりを行う。 Cタブレット端末を用いて自分の考えを可視化し、友達と交流することで、考えを深めたり広げたりする学習を充実させる。	